

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成  
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

（自治体において）

【申請者の現状・課題】

（専門高校として）

○産業団体と教育界の連携成功例が生まれたが持続的な基盤にまで至っていない。  
○マイスター・ハイスクール事業の成果継続のため、熊本県教育委員会は熊本県情報サービス産業協会と「産業人材育成連携協定」を令和5年度内に締結した。  
○すでに経済・産業7団体と「熊本県地域人材育成連携協力協定」を締結しているものの、共通の目標設定や行動計画までには至っていないため、潜在的な可能性を十分発揮できていない。  
○新たに産業実務家教員を依頼する場合に、負荷の大きさに対して企業のメリットが釣り合うような段階になるとは受け取られないことが多い。

○多くの高校で個別の企業と連携した授業や探究活動、キャリア教育が実施されているが、個別の学校と企業の連携は単独の取組みが多く、産業人材育成ためのカリキュラム刷新や体系的教育の構築には至っていない。  
○先導校（八代工業高校）における成果の活用について、他校での実現は容易ではないと受け取られることが多い。  
○「県立高校半導体関連人材育成事業」や「キャリアプランニング推進事業」におけるコーディネータ活用による連携実績があるが、学校が自律的に企業へ働きかけるような姿勢が育っていない。

（自治体において）

【実施内容】

（専門高校において）

○**産業界と学校が自律的・持続的に連携するための仕組みづくり**: 持続的な地域振興、地域産業界の発展の視点に立った拠点校の市町村・地元産業界との連携による市町村単位の産学官連携のエコシステムの構築、産学連携コーディネータによる学校間・学校と企業間のコミュニケーション支援、県の各事業における各コーディネータの情報共有や連携による持続的で効果的な学校支援やマッチング体制の構築  
○**事業実施の過程で得られた知見やプロセスのパッケージ化**: 県域の産業界との合意形成のプロセス、学校が立地する地域との合意形成のプロセス、学校内における取組のプログラム化のプロセス、本事業の推進における産学連携コーディネータの在り方、他校や産業界に対する成果普及に係る情報発信や周知の在り方、産業界と学校が一体となった体系的教育システムの構築のプロセス等を取りまとめる。

○**複数校での成果の活用**: 産業界と学校での目標の明確化・共有化、学校全体での組織的なPDCAサイクル、産業実務家教員と学科の継続的な対話、先導校の教師及び産業実務家教員による他校向け研修会の実施によるノウハウの共有、産業実務家教員経験者による新規協力企業への取組価値の共有  
○**新規拠点校におけるカリキュラム改善**: 先導校の取組や改善の過程を参考に、産学連携コーディネータの助言を受けながら、指導と評価の年間計画を軸に、それぞれができることを可視化するなど、実施上のすり合わせを十分に行う。  
○**地域が求める人材像の明確化**: 地域自治体や地域の産業界等との共通認識に向けた推進委員会を設置し、育成したい人材像、事業内容、成果を共有するなど、カリキュラム改善の前提となる地域が求める人材像を明確化する。

【目的】

（自治体において）

本事業（産業界と専門高校の連携）を通してどんな変化を目指すか

（専門高校において）

○県域の産業界と教育界、自治体との共通目標と実施計画、ロードマップ、客観的な成果指標の開発など連携システムを作り、持続可能な連携基盤とする。  
○上記取組を他校の参考となる自律的なモデルとして確立することで、県全体の高等学校（専門高校・普通高校）への普及を図る。  
○新規拠点校の導入プロセスや企業と連携したカリキュラムの刷新、産学連携コーディネータの果たす役割、課題及び課題解決のプロセスや成果を校種ごとの好事例としてとりまとめ、周知することで、県全体へ普及させる上での高等学校の負担意識の低減と取組意欲の向上を図る。  
○効果的な産学連携コーディネータの活用モデルを作り、将来、数多くの学校を対象とする場合にもコーディネータの負荷が大きならないシステムを作る。  
○企業にとっての取組価値を明らかにし、連携協定を締結している団体等と協力して積極的に説明することで産業界の参加意欲を高める。  
○市町村単位の取組モデルと県域でのモデルとの連携を示すことで、市町村の取組意欲を高めたり、取り組む上で参考にできるようにする。

○学校と地域の産業界が自律的・持続的に連携する市町村単位のエコシステムを構築する。  
○拠点校で各校の目標とする教育充実のために、学校と企業が効率的に連携しながらカリキュラムの刷新に取り組み、「開かれた教育課程」を実現する。  
○高校生が地域社会の現実のテーマに取り組むことによって、社会の一員としての使命感を持つとともに、主体的に課題発見・解決に取り組む姿勢及び能力を育成する。  
○プロセスや成果を校種ごとの好事例としてとりまとめたものを活用することで、今後新しく取組みを開始する学校の負担意識の低減と取組意欲の向上を図る。  
○効果的にコーディネータを活用するモデルを作ることで、自律的に学校と企業が互いに連携できるようにする。

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成  
 ～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

事業目的

- マイスター・ハイスクール事業の成果を活用した産業人材育成活動の複数校での導入
- 産業界と学校が自律的・持続的に連携するための仕組みづくり

R6年度取組

先導校

八代工業高校

- インテリア科：(3年)BIM基礎講習・設計課題、  
 (2年)2次元CADとBIM、(1年)建設DX講話
- 機械科：(3年)専科コース制実習を進路に則した内容に変更  
 (2年)工場見学等、(1年)産業ロボット講義
- 工業化学科：(3年)課題研究の技術指導(2年)コンピューティング  
 技術・AI活用、(1年)IT技術活用等
- 電気科：(3年)KYT実習・課題研究（ネットワーク構築）  
 (2年)企業視察等、(1年)「工業情報数理」講義
- 情報技術科：(3年)プレゼンテーション実習、(2年)RPA実習、  
 (1年)IoT・OS・ネットワーク実習



玉名工業高校

- 機械科：3次元CADによる板金機能の習得等  
 半導体実技研修（LED点灯回路の作成等）  
 アルミニウム板のスプーンの製作・研磨
- 電気科：電気通信工事講義  
 通信ケーブル接続体験実習
- 電子科：Google Apps Scriptによるアプリ開発
- 工業化学科：工場見学・次年度に向けての連携構築
- 土木科：校内特別実習によるコンクリート打ち



産業界と学校が自律的・持続的に連携する仕組みづくり

天草工業高校

- 機械科：企業インターンシップ・事後学習にて出前授業活用
- 電気科：ケーブル接続、防雨処理及びLED設置実習  
 危険予知訓練（KYT）
- 土木科：ドローン講習・実技講習、「現況平面図」を作成  
 コンクリート舗装実習・測量設計最新機器講習
- 情報技術科：CG制作実習(天草市連携協定による講師派遣)



阿蘇中央高校

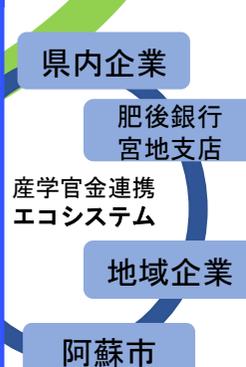
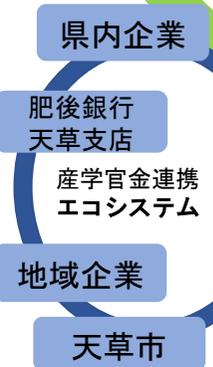
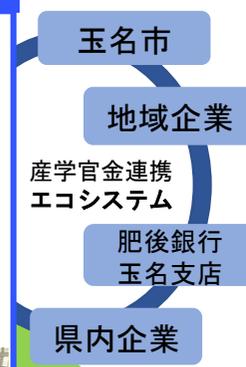
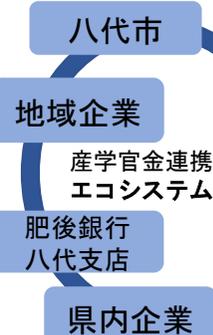
- 総合ビジネス科：科目「ソフトウェア活用」の協働授業  
 プログラミング的思考やデザイン思考の習得
- 農業食品科：スマート農機実習・スマート畜産の学習
- グリーン環境科：ソフトを活用した防災・まちづくり設計
- 社会福祉科：介護ロボットによるスマートふくし連携授業
- 普通科：次年度に向けての連携構築



汎用性の高い活用可能な好事例を普及し他校での展開を図る

県内すべての高校（専門高校・普通高校）への普及

産業界・地域と人材育成をともに考える・実践する



熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成  
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

事業目的

- マイスター・ハイスクール事業の成果を活用した産業人材育成活動の複数校での導入
- 産業界と学校が自律的・持続的に連携するための仕組みづくり

「社会に開かれた教育課程」の実現

- 学校の目標や育成したい資質・能力を、産業界や地域と**ともに考える**
- 互いを理解・尊重し、**対等な関係で対話**を重ね、人材育成に取り組む
- 地域を核とした**産官学金と連携した**学校組織としての持続的な取組み**
- 産業界と連携したカリキュラム改善など、**常に成長する**取組みとする

共有ビジョン  
実現へ

夢を見つけ、夢をもって生きることができる未来

- 1 主体的・創造的な次世代人材の育成
- 2 異なる分野や多様な人々と協力して創造・課題解決する人材の育成
- 3 現代の社会・産業界を理解し、目標を持って取り組む人材の育成

生徒の成長のために  
夢に向かって挑戦できるように

地域社会とともに  
社会の課題に取り組んでいく

産業界とともに  
革新的職業人材の育成に向けて

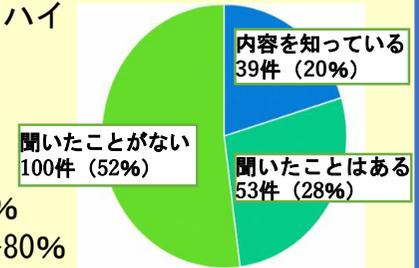
R6年度取組・成果

産学官金の連携基盤を構築

- 熊本県版マイスター・ハイスクールのビジョンと、県域普及に向けたロードマップ・最終目標ビジョンの策定
- 地域社会・産業界の持続的発展に向けて、拠点校が立地する4市及び肥後銀行と、市町村単位の産学官金が連携した人材育成プラットフォームの基盤を構築
- 県内の産業・経済8団体と、熊本県版マイスター・ハイスクールの県域普及に向けた連携の合意形成

産業界への周知・アンケート実施

- 県内産業・経済8団体に熊本県版マイスター・ハイスクールの理念を周知（チラシの送付・3団体の総会等で事業説明）
- アンケート調査の実施【産業界・行政のKPI】
  - ・マイスター・ハイスクールの認知度 20%→40%
  - ・高校と連携した産業人材育成の取組意欲60%→80%



先導校のノウハウ共有・情報交換

- 拠点校研修
  - ・産業実務家教員の授業視察
  - ・実践報告
  - ・産学官によるグループ協議
- 拠点校意見交換会
  - ・何のために全県立高校にMHSを展開するか協議
  - ・何のために企業と一緒に取り組むのか協議



産学連携コーディネータ

- 学校の要望に応じた連携企業の提案・企業との調整
- 自治体からの情報提供により地元企業とのマッチングを実施
- 【学校・産業界・行政共通のKPI】
  - ・新規拠点校の協力企業・団体数の増加
  - R5：22社→R6：44社→R7年目標値：60社

成果指標

- 【学校のKPI】
  - [生徒] 先端技術の追求、発想力・創造力
  - 課題解決能力（課題発見、見通し・段取り力）
  - 知識・技術の理解、地域貢献
- [教員]
  - 地域産業・企業の理解度、校内組織度
  - 産業界・地域とカリキュラム刷新の取組度

課題

- 産業・経済団体や基礎自治体との対話により、協力体制が構築でき、試行ではあるがマッチングが機能し始めている。しかし各関係機関の役割が曖昧で一元化されておらず、プラットフォームの活用に係る手順等の定めがないため、学校からの活用しにくさがある。
- 学校の組織化が図られ、拠点校にて産業界との対話から授業改善への検討が行われているが、熊本県版マイスター・ハイスクールの理念に沿った取組やカリキュラム刷新に至っているか、学校が判断できるビジョン・指標を示す必要がある。
- 県内普及に向けてポータルサイトの運用に至っておらず、メディア等を有効に活用した周知が必要である。
- 自走化に向けて全県立高校への理念の普及、及び学校と産業界のコーディネート機能を他事業の人員で担うことは可能か検証が必要である。

# 熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成 ～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

## 管理機関

熊本県教育委員会

熊本県商工労働部

アドバイザリーボード  
として助言

## 産業界 (産学金)

産業実務家教員の派遣 (授業・実習)  
企業実習・見学の受け入れ  
カリキュラム開発への協力

熊本県情報サービス産業協会

熊本県工業連合会

肥後銀行

地域企業・団体

産業実務家教員企業

市町村自治体

地域の産官学との繋ぎ  
地域課題の共有  
学校への支援

育成すべき資質・能力を  
共有した上での連携

ニーズの把握 依頼・調整

産学連携コーディネータ  
高校教育課

ニーズの把握 依頼・調整

## 学校

拠点校  
4校

玉名工業高校

天草工業高校

八代工業高校

阿蘇中央高校 (農業・商業・福祉・普通)

### 先導校

産業界と連携したカリキュラム開発の  
深化・発展・整理  
新規拠点校へのノウハウの共有・助言

### 新規拠点校

地域との連携強化による体制の枠組みづくり  
産業界と連携したカリキュラム改善  
市町村産業関係課との課題の共有  
産業実務家教員による授業の実施、企業実習・企業見学  
市町村教育委員会との連携による中学校への出前授業  
など

各学校が設置

校内運営委員会

育成すべき資質・能力の明確化  
連携内容・方法の協議、評価、改善 等

各学校で活用

学校運営協議会

## 事業運営委員会

事業実施の意思決定、「マイスター・ハイスクール」の  
ビジョン策定、熊本県の産業教育の在り方について  
(年2回)

- 熊本県教育長(学校設置者)
- 熊本県商工労働部長(地方自治体)
- 熊本県産業政策名誉顧問 村山 伸樹(産業政策)
- 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会長 足立國功(産業界)
- 肥後銀行頭取 笠原 慶久(地方創生)
- 一般社団法人熊本県工業連合会長 田中稔彦(産業界)
- 熊本大学理事・副学長 宇佐川毅(産学連携)
- 熊本大学教育学部准教授 高崎文子(評価検証)
- 武蔵野美術大学造形構想学部教授 若杉浩一(STEAM)
- 各拠点校校長

## 事業推進委員会

事業実施の具体的手法等について検証、改善、  
課題解決(年2回)

- 各拠点校校長、研究主査・副主査、学科主任等
- 肥後銀行地域振興部長
- 一般社団法人熊本県情報サービス協会事務局長
- 一般社団法人熊本県工業連合会事務局長
- 熊本大学工学部長
- 熊本県教育庁県立学校教育局 高校教育課長
- 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課長
- 各拠点校立地自治体地域振興又は経済振興担当課長
- 各拠点校産業実務家教員・連携企業代表
- マイスター・ハイスクール事業推進委員会アドバイザー

助言・承認